

大西洋統合と欧州近隣諸国政策 「地政学」と「間主観性」の示唆

第37回慶応EU研究会報告資料(改訂版)
2008年12月20日(土) 午後2:30 ~ 3:50

本資料は、研究会での批判、討論を考慮して改訂したものである。
貴重なご意見に感謝したい。

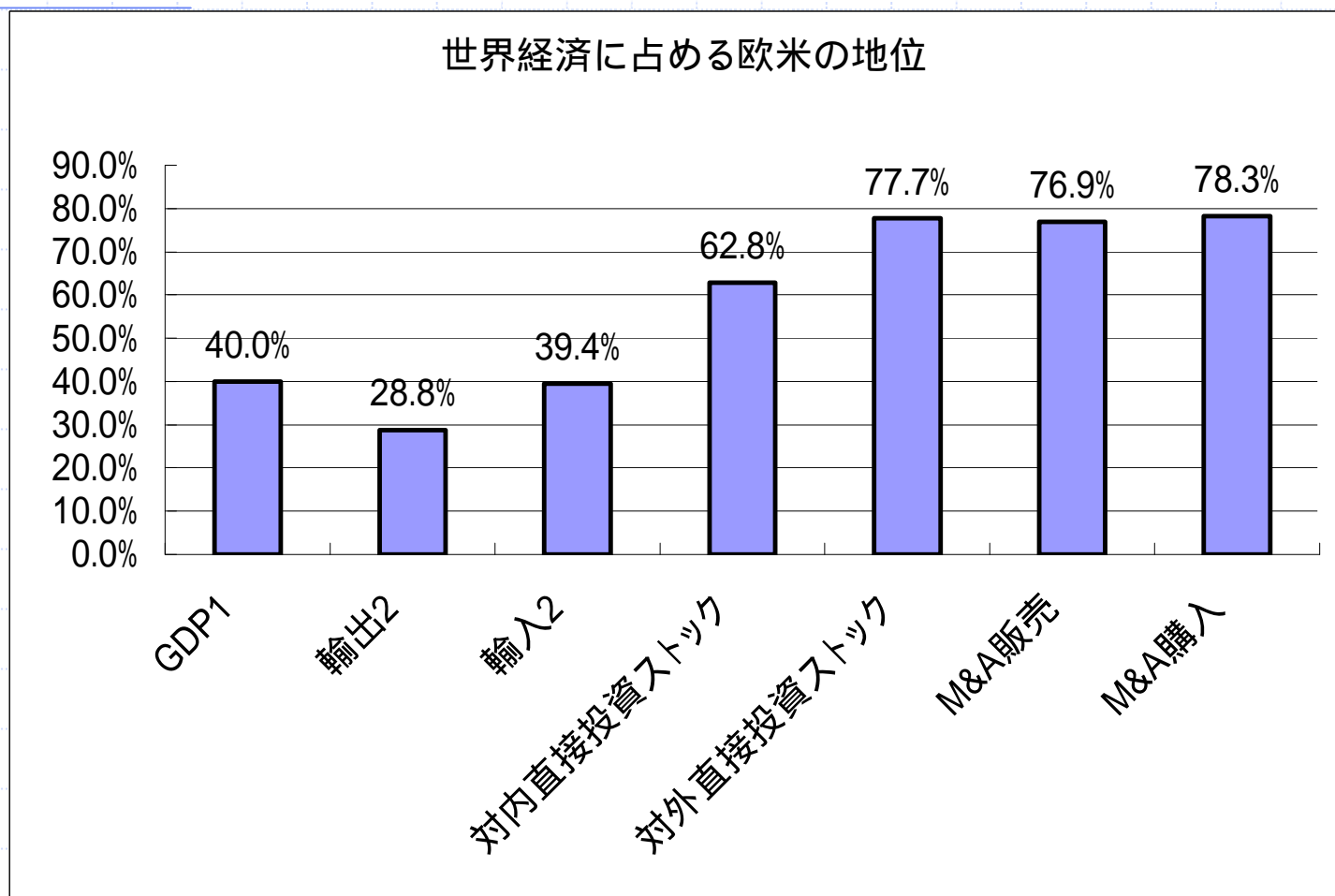
蓮見 雄
立正大学経済学部
yhasumi@ris.ac.jp

目次

- ◆ 大西洋統合
- ◆ ヨーロッパにおける重層的なパワー構造と配置理論
- ◆ 「多元的開放型リージョナル・ガバナンス」生成過程としての欧州近隣諸国政策
- ◆ 欧州近隣諸国政策と境界線
- ◆ ソフト・パワーとしてのEU? : 規範から地政学的主観性の生成へ
- ◆ ノーザン・ダイメンションの事例
- ◆ ENPI-CBCの含意
- ◆ 間主観性 (Intersubjectivity) の示唆
- ◆ 「社会生成の現場」としてのENPI-CBC

大西洋統合

大西洋統合の基礎



注: 1 購買力平価(推定) 2 EU 域内貿易を除く

欧・米を繋ぐ7つの紐帯 + NATO

- ◆ 「15年ほど前、日本人が米国企業を次々と買いあさっているとアメリカ人は声高に非難し、現在も、中国による巧妙な米国企業の買収に危機感を抱いている者も少なくない。だが、そのアメリカ人も、イタリアやドイツの投資家や、イギリスとオランダの合弁企業が、アメリカの資産や企業を買収しても、その事実には気づかない。あるいは、気にとめない。」(トム・リード著、金子宣子訳『「ヨーロッパ合衆国」の正体』新潮社、2005年、3頁)。つまり、無意識のうちに、「われわれ」という共同主観が生成されている。
- ◆ 欧・米資本の相互浸透
 - 子会社の生産 > 韓国、ブラジル、インド
 - アイルランドのGDPの15%は、米国系企業子会社による。
 - イギリス、ノルウェーの総生産の5%以上は、米国系企業子会社による。
- ◆ 在外資産の所在
 - 米国系企業の在外総資産の61%はヨーロッパにある。
 - 欧州系企業は、在米外国企業資産の76%を占める。
- ◆ 雇用の相互依存(在米欧州系企業・在欧米国系企業で800万人 + その波及効果で120~140万人の雇用)
- ◆ R&Dの相互投資(在外米国企業の研究・開発投資の65%)
- ◆ 企業内貿易(関連企業どうしの貿易が3分の1~2分の1)
- ◆ 欧・米の市場統合(在米欧州系企業の販売高は、米国のヨーロッパからの輸入の3倍)
- ◆ 欧・米企業の収益源泉(米国系多国籍企業の利潤の2分1以上が、ヨーロッパ市場で)

欧・米関連企業どうしの貿易(2005年)

	米国の輸入に対する関連企業貿易の割合 %	米国の輸出に対する関連企業貿易の割合 %
EU	57.9	31.7
フランス	48.7	34.7
ドイツ	61.5	31.7
オランダ	57.9	38.7
イギリス	58.4	29.5
その他ヨーロッパ諸国	48.5	28.4

出所: Haminton and Quinlan, 2007, p. 15.

米・欧の雇用バランス

(1,000人、2004年)

国	在欧米国系企業	在米欧州系企業	雇用バランス
オーストリア	33.3	9.6	23.7
ベルギー	120.0	130.4	10.4
デンマーク	38.3	60.6	22.3
フィンランド	19.6	36.2	16.6
フランス	562.8	451.6	111.2
ドイツ	601.7	668.6	66.9
アイルランド	82.8	37.4	45.4
イタリア	238.5	102.4	136.1
オランダ	175.1	481.1	306.0
ノルウェー	33.4	9.5	23.9
スペイン	197.2	20.2	177.0
スウェーデン	101.2	207.8	106.6
スイス	67.3	383.2	315.9
イギリス	1,166.3	920.8	245.5
ヨーロッパ	3,979.3	3,548.0	331.3

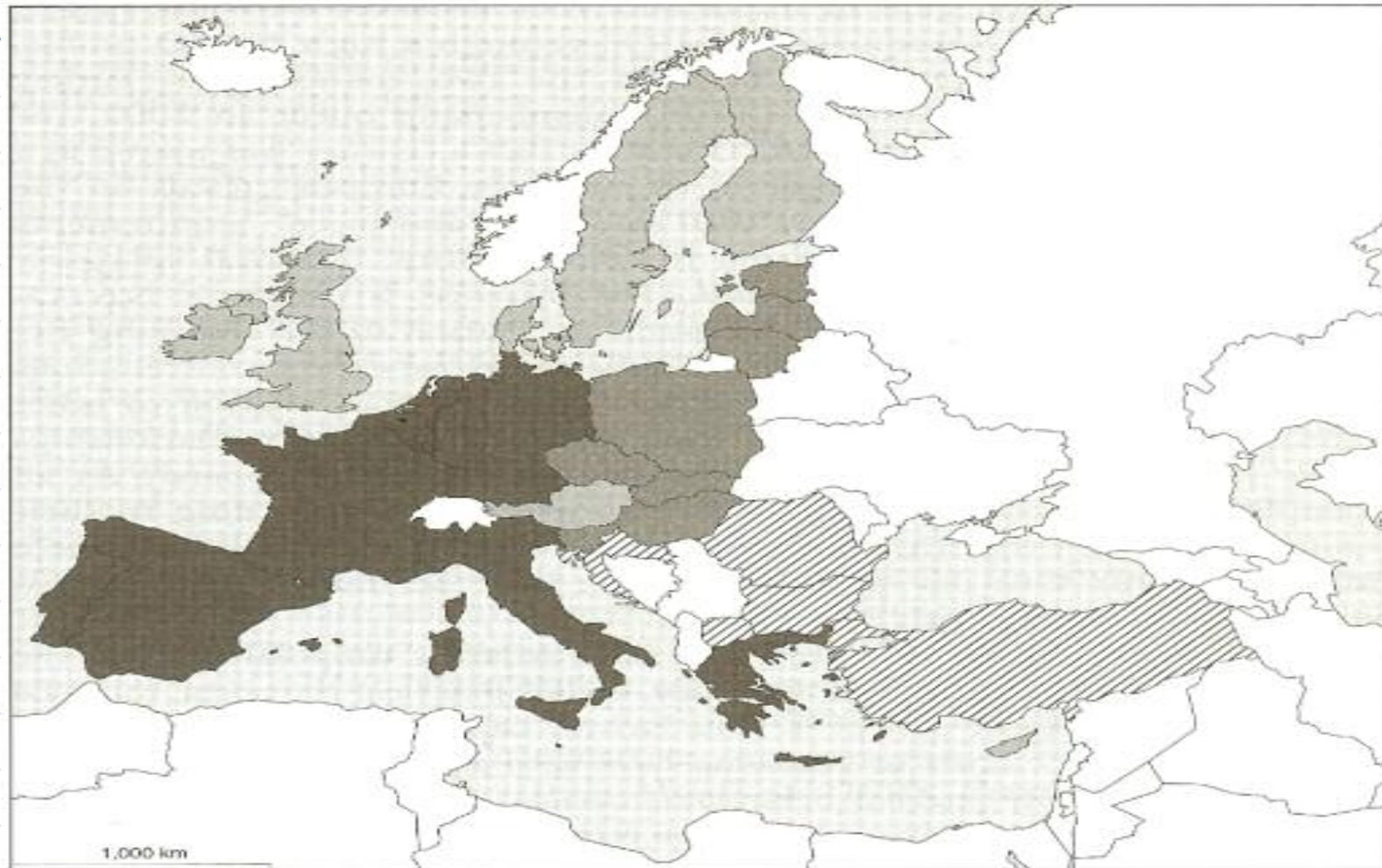
大西洋統合を支える制度

政府間制度	超政府制度	超国家制度
EU - 米国首脳会議 (ソフトセキュリティ、経済問題)	(政治) 新しい大西洋アジェンダ (NTA) 上級レベルグループ 新しい大西洋アジェンダ (NTA) タスクフォース	大西洋ビジネス対話
NATO 会議 (ハードセキュリティ)	(経済) 大西洋経済パートナーシップ (TEP) 経済評議会 大西洋経済パートナーシップ (TEP) ワーキンググループ	大西洋消費者対話
	(安全保障) 共通外交安全保障 (CFSP) ワーキンググループ	大西洋環境対話

出所: Smith and Steffenson, 2005, p. 352.

ヨーロッパにおける重層的パワー構造 と配置理論 (Constellation theory)

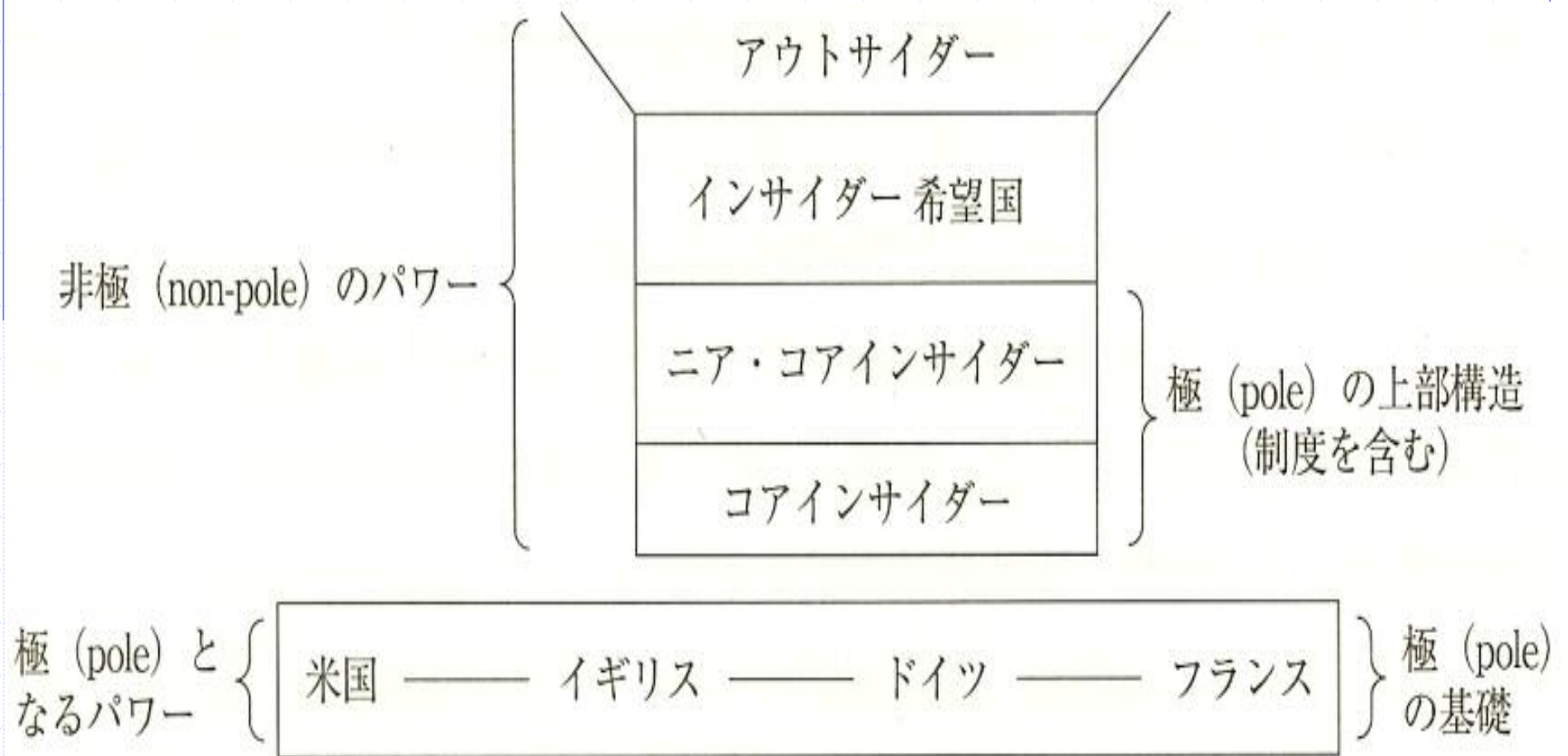
ヨーロッパのパワー配置 (Constellation)



■ 確立したコアインサイダー ■ ニア・コアインサイダー □ アウトサイダー
■ 2004年時点のコアインサイダー ▨ インサイダー希望国

出所: Mouritzen and Wivel, 2005, p. 31.

ヨーロッパにおける重層的なパワー構造



理論レベル

Realism

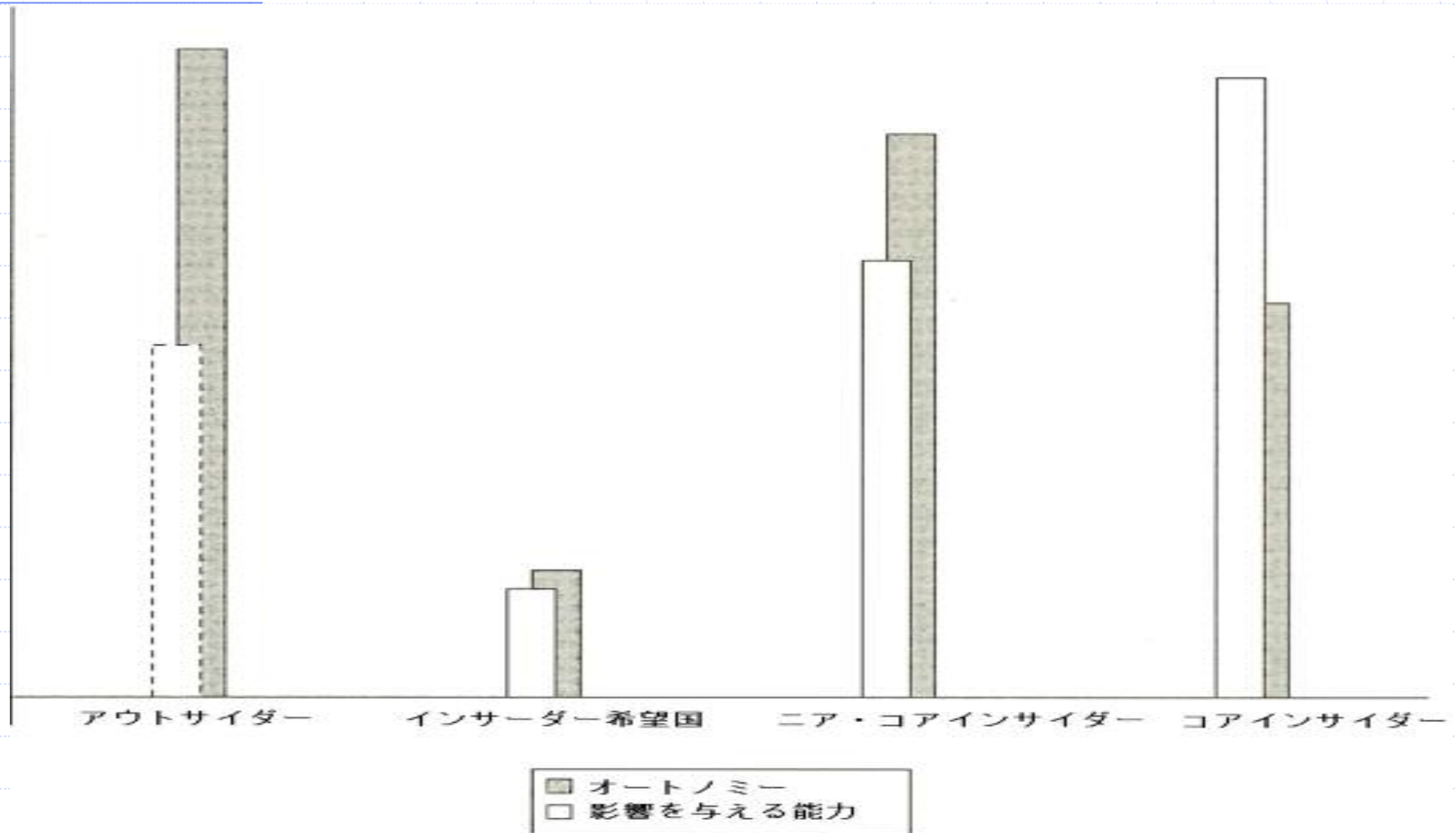
Geopolitics

Constellation theory

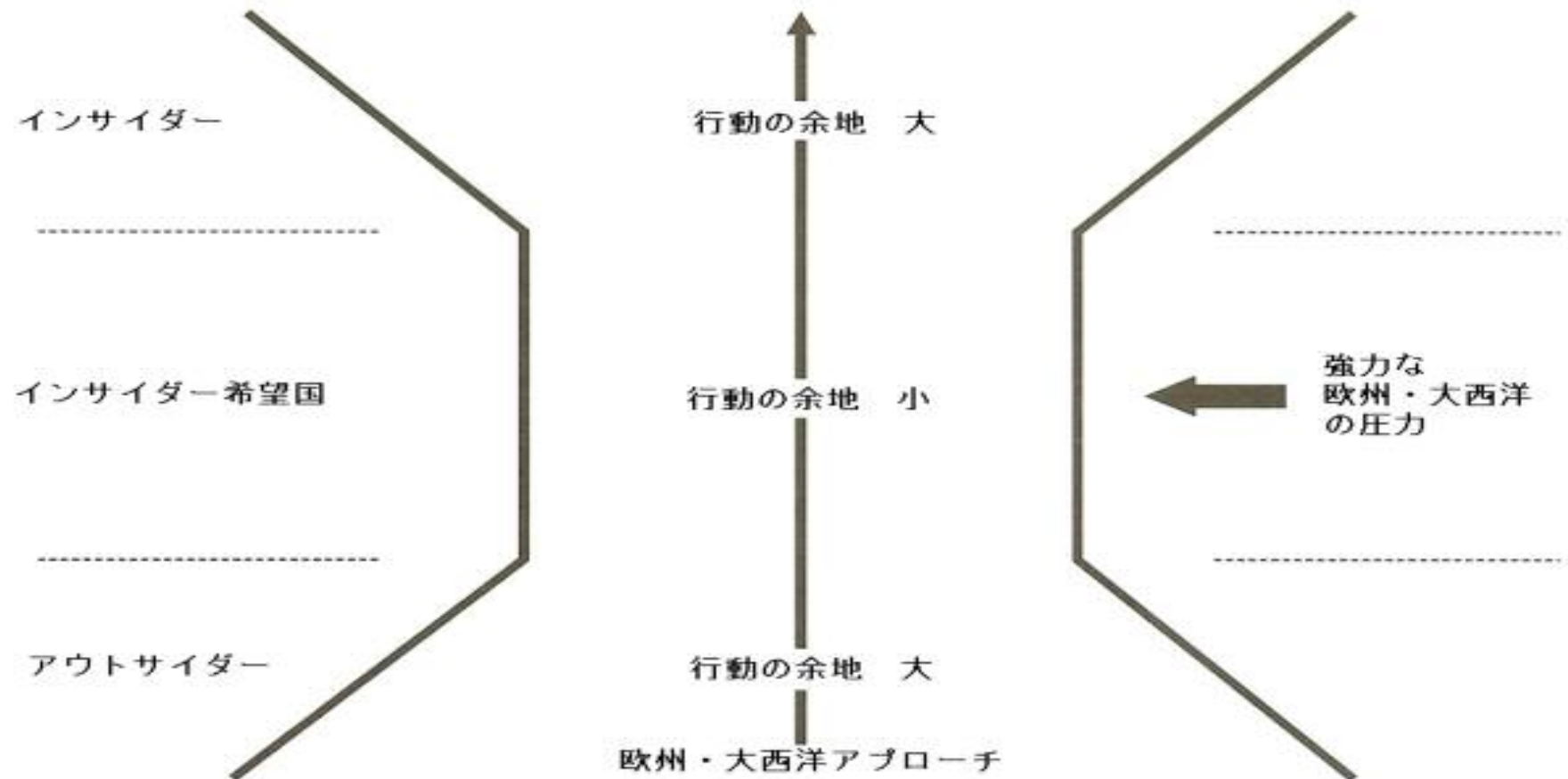
Unipolar theory

Unipolar integration theory

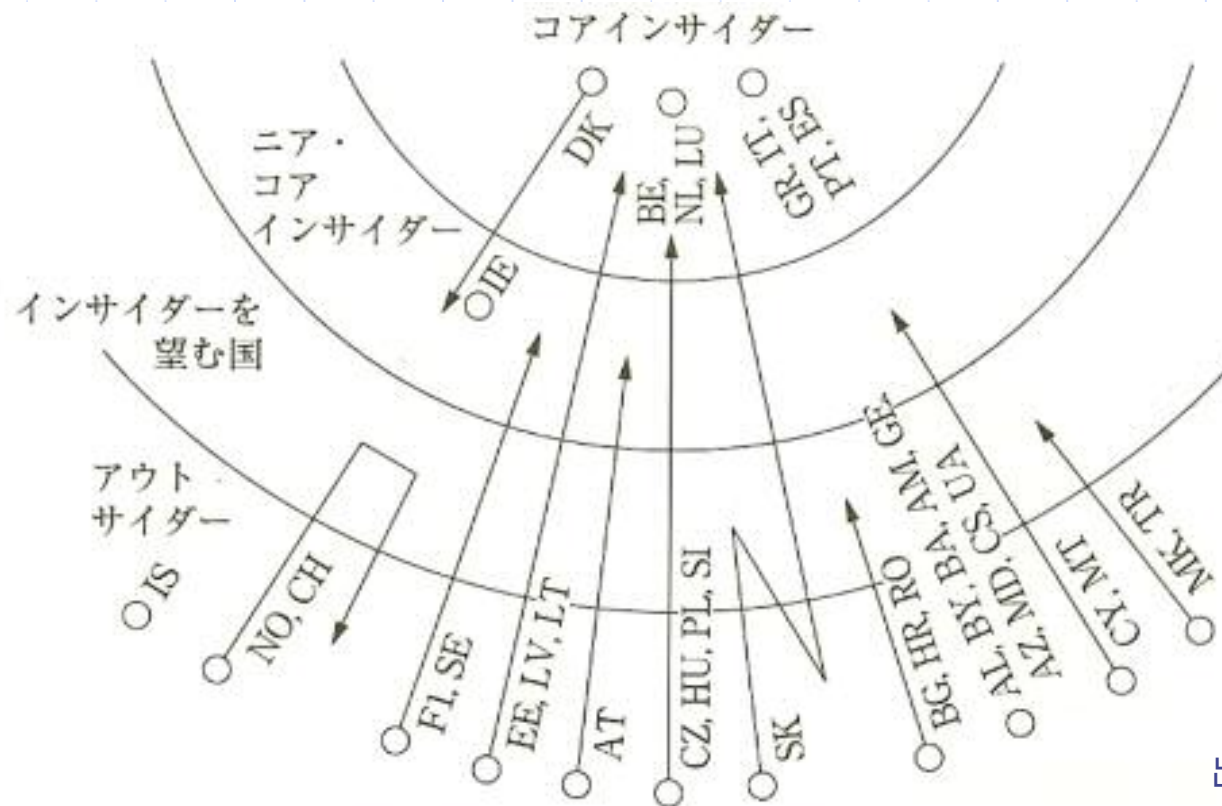
4つのアクターのオートノミーと影響力



パワーの配置と国家の行動の余地



ヨーロッパにおける非極各国の配置の変化(2005年時点)



出所: Mouritzen and Wivel, 2005, p. 171.

IS: アイスランド, NO: ノルウェー, CH: スイス, DK: デンマーク, IE: アイルランド, FI: フィンランド, SE: スウェーデン, EE: エストニア, LV: ラトヴィア, LT: リトアニア, BE: ベルギー, NL: オランダ, LU: ルクセンブルグ, AT: オーストリア, CZ: チェコ, H: ハンガリー, PL: ポーランド, SI: スロヴェニア, SK: スロヴァキア, BG: ブルガリア, HR: クロアチア, RO: ルーマニア, GR: ギリシャ, IT: イタリア, PT: ポルトガル, ES: スペイン, AL: アルバニア, BY: ベラルーシ, BA: ボスニア, AM: アルメニア, GE: グルジア, AZ: アゼルバイジャン, MD: モルドヴァ, CS: セルビア, UA: ウクライナ, CY: キプロス, MT: マルタ, MK: マケドニア, TR: トルコ

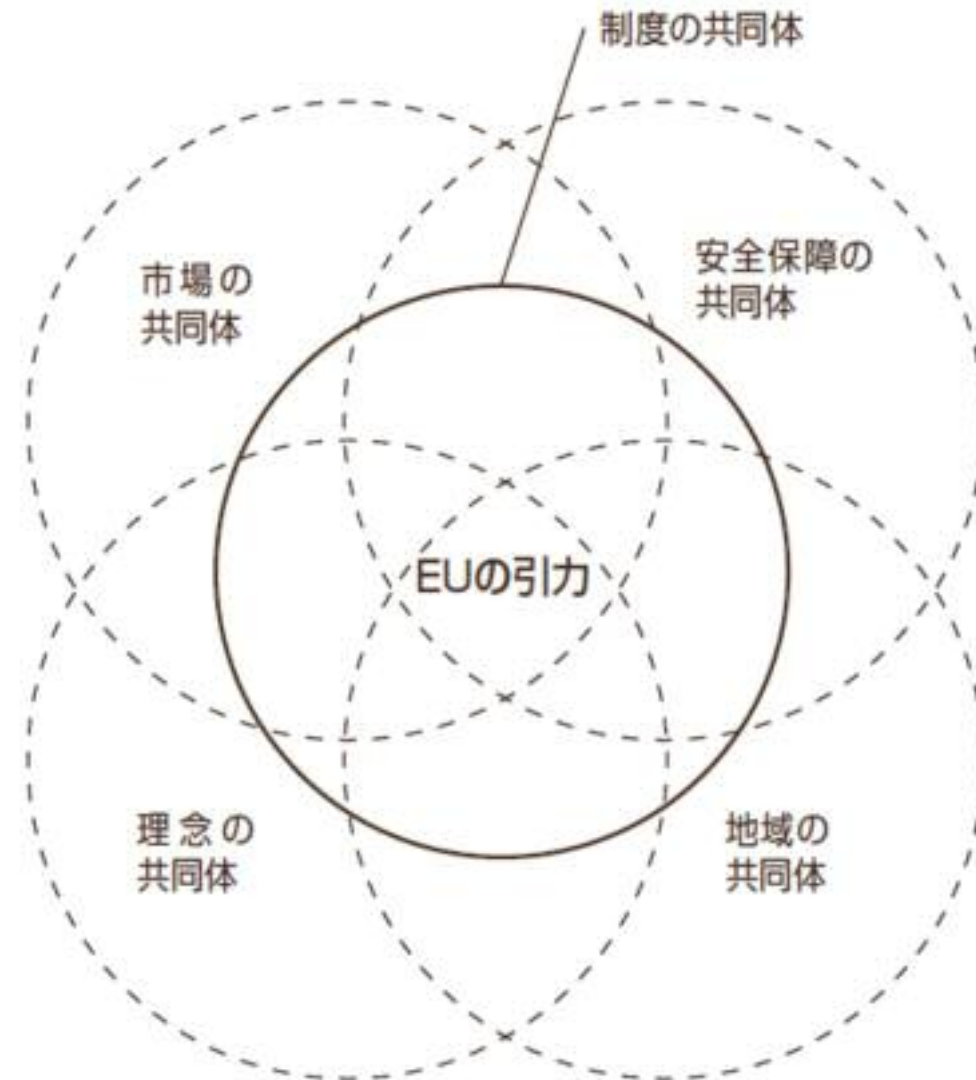
報告用資料につき、
引用はご遠慮下さい。
©Yu Hasumi

「多元的開放型リージョナル・ガバナンス」 生成過程としての欧州近隣諸国政策

欧州近隣諸国：「プロセス」としてのEUが 「アクター」としてのEUに出会うアリーナ

- ◆ 補完性原則に基づく「制度の共同体」が作り出す規範を
- ◆ 国家が一定の選択の範囲で、自発的に受け入れ、
- ◆ 「市場の共同体」の利益を分かち合い、
- ◆ 脱セキュライゼーションし「安全保障の共同体」となる。
- ◆ 近隣諸国を「市場の共同体」ばかりでなく、「地域の共同体」を通じて「制度の共同体」に部分的に参加させながら、
- ◆ 「理念の共同体」を普遍化し、多元的開放型ガバナンス・モデルを受け入れていく社会条件を醸成する。
- ◆ EUは、「内」と「外」のボーダーを崩しながら、新しいガバナンスを構築していくシステムに転換する可能性をもつ(ソフト・パワー、規範のパワー)。

EUの引力： 多元的開放型リージョナル・ガバナンス



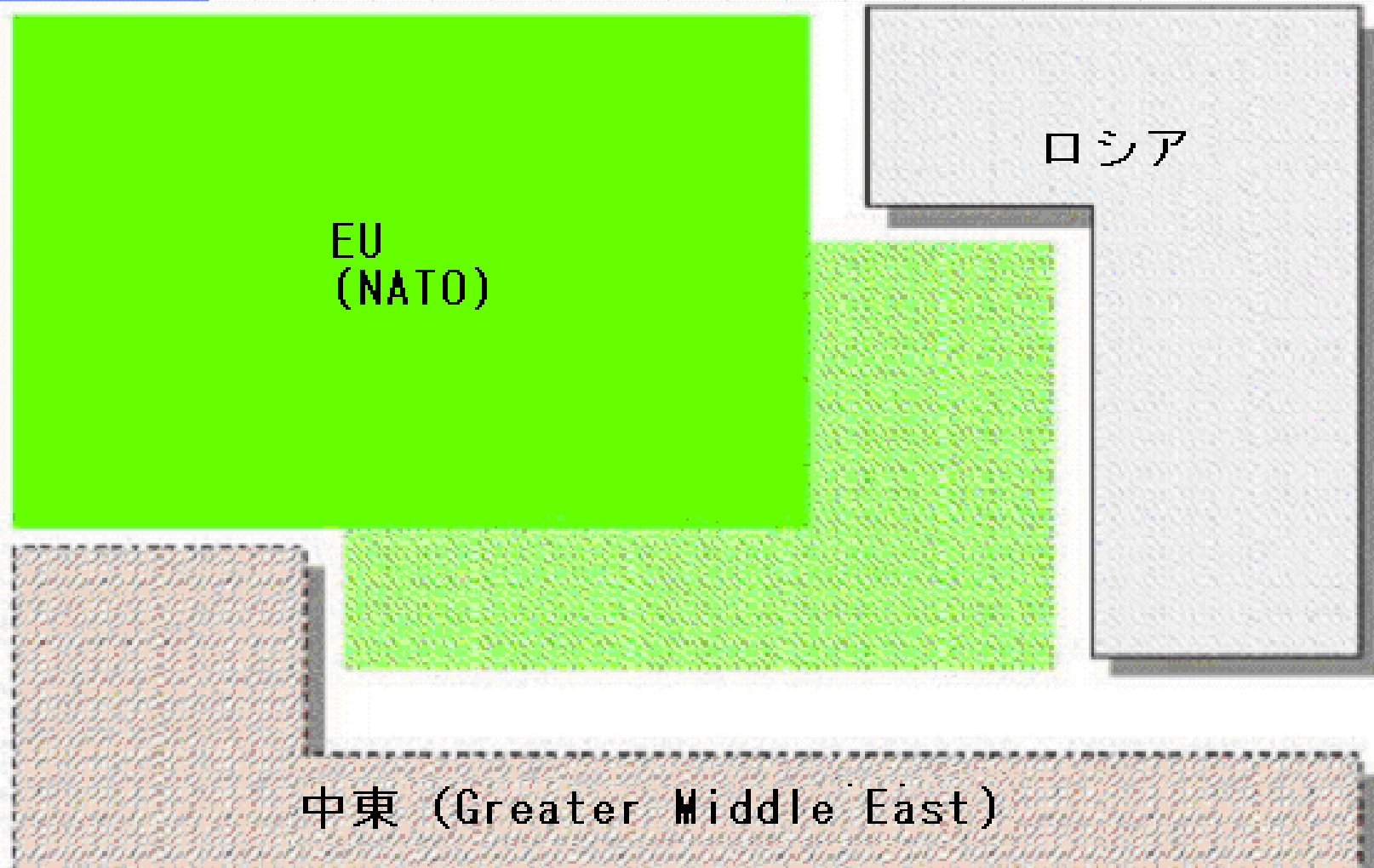
20世紀末の大変動と国家の役割の変化

	1945-1970年代	1980年代	1990年代以降
国家	福祉国家	競争国家	協力国家
行政	官僚的スタイルの行政	新しいパブリック・マネジメント、官と民の領域が曖昧になる。	新しいパブリック・マネジメント、官と民の領域が曖昧になる。 E - ガバナンス
経済	組織資本主義	脱組織資本主義	再編資本主義
産業関係	厳格な介入、ネオコーポラティズム	プurlラリズム、コーポラティズムの消滅	軽い規制的コーポラティズム (Light Regulatory Corporatism)
加盟国と超国家機構 (EU)との関係	加盟国支配 (空席危機)	加盟国支配、関係の変化	加盟国協力と超国家機構
主権 (Sovereignty)	国家主権	国家主権の衰退	主権の共有
グローバルな秩序・イデオロギー	冷戦、ブレトン・ウッズ体制	グローバル・リベラリズム、民主化、レーガノミクス	グローバル・ガバナンス、民主化とグローバル機構の必要性、パクス・デモクラチカ

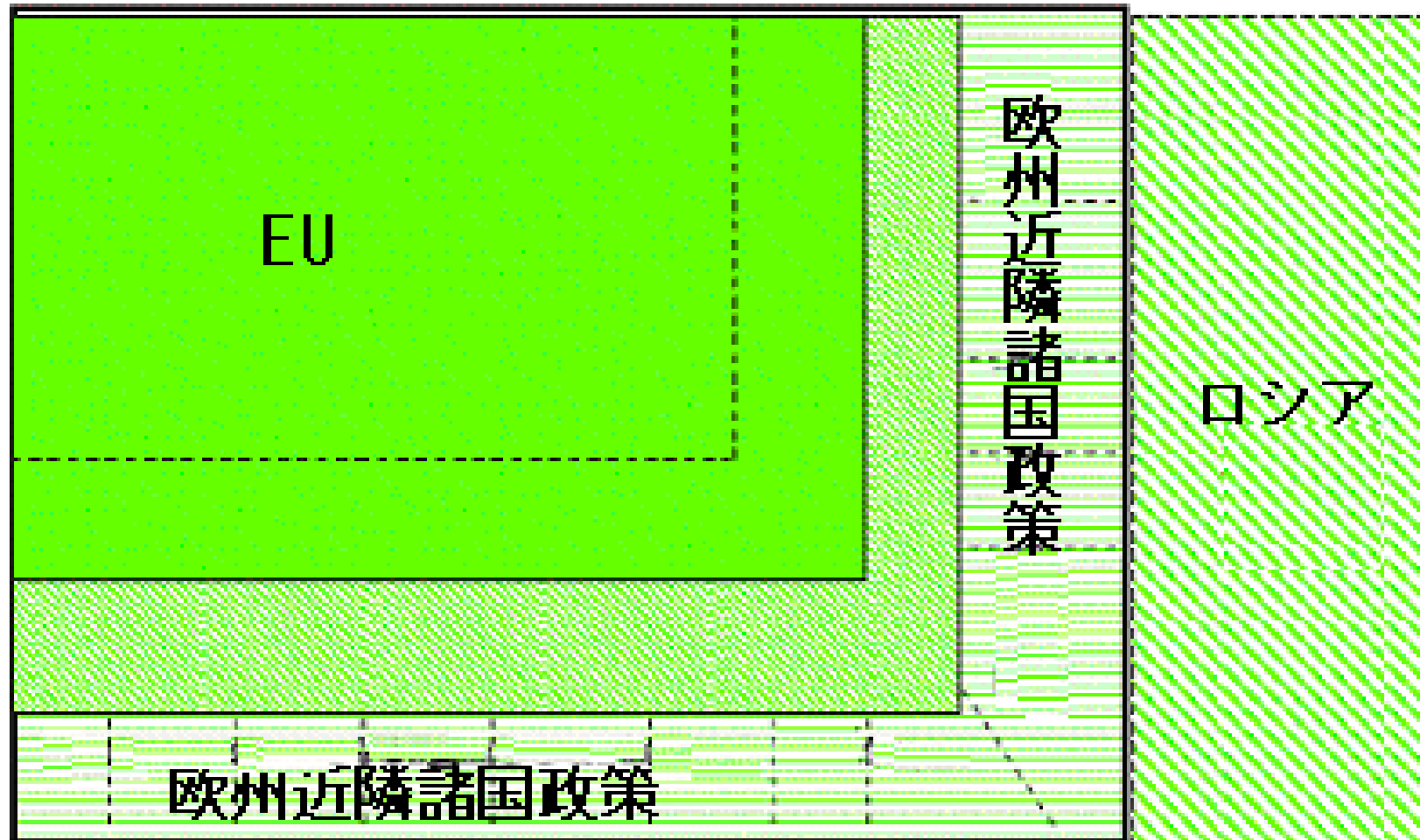
出所: Magone, 2005, p.54.

報告用資料につき、引用はご遠慮下さい。©Yu Hasumi

欧州近隣諸国に対するアメリカの認識



欧州近隣諸国に対するEUの認識



欧・米の政策の収斂と乖離

収斂

乖離

西バルカン—トルコ—WNIS—ロシア—北アフリカ、中東

欧州近隣諸国政策と境界線

地政学の示唆

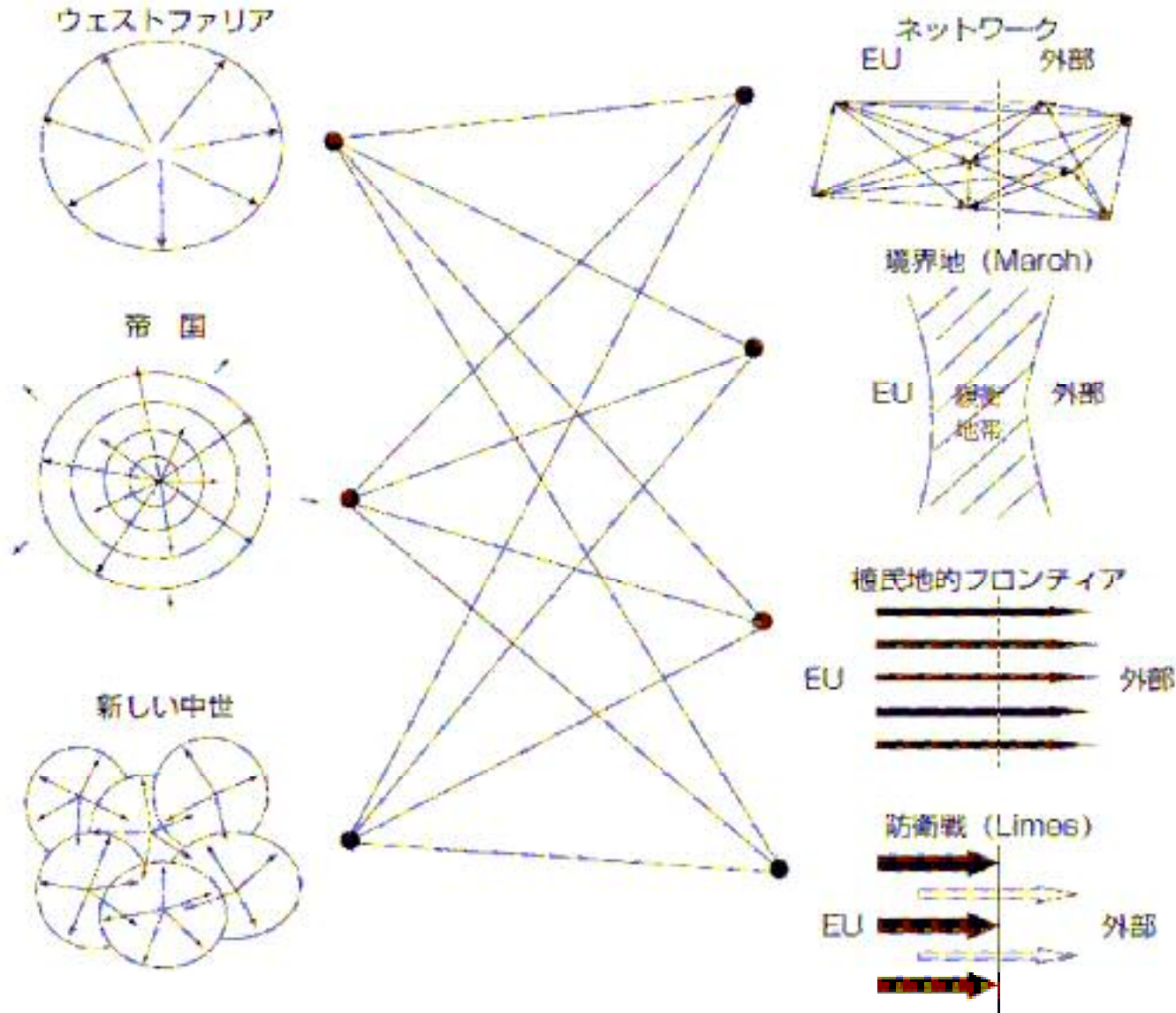
◆ 地政学

- ウェストファリア = 国家の延長としてEUをとらえ、シェンゲンを国境の形成と認識し、ヨーロッパ軍を重視。
- 帝国 = 階層化された同心円としてEUをとらえ、安全保障のディスコースを重視
- 新しい中世 = 複数の中心からなるネットワーク・ガバナンス

◆ ジオストラテジー

- ネットワーク = 境界線を越える緊密な協力
- 境界地 (March) = 緩衝地帯
- 植民地的フロンティア = 出会い、暴力、和解、非対称性
- 防衛線 (Limes) = 非対称性の制度化

地政学モデルとジオストラテジー



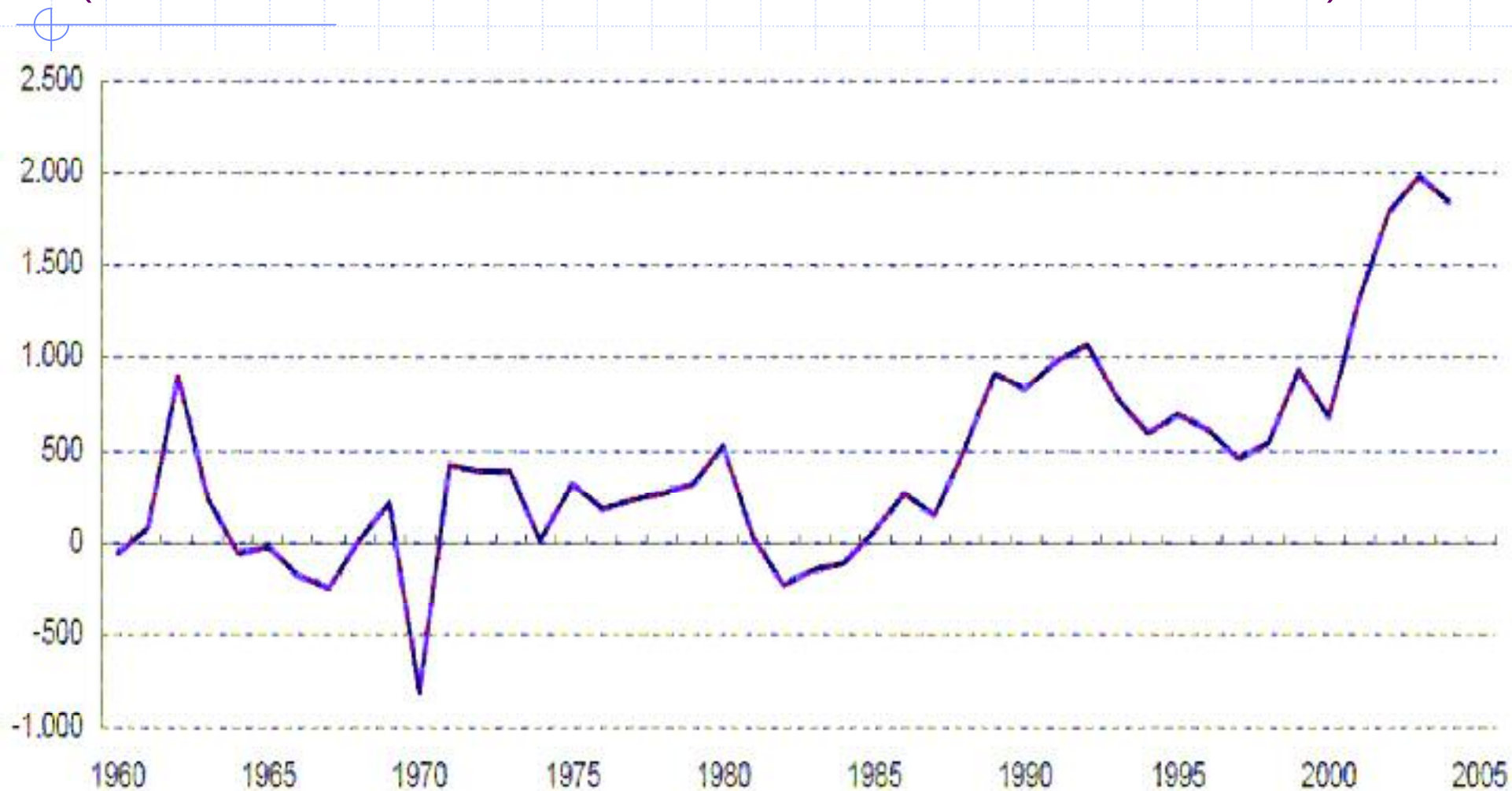
出所: Browning and Joenniemi, 2007, p. 6とp. 12の図を組み合わせたもの。

境界線に現れるEUの異なる姿

- ◆ 東: 「帝国」+ 「防衛線」から「帝国」+ 「植民地的フロンティア」へ?
- ◆ コーカサス: 「帝国」+ 「境界地」?
- ◆ 南: 出会いの地というディスコースにもかかわらず、「帝国」+ 「防衛線」、あるいは「ウェストファリア」+ 「防衛線」?
- ◆ 北: 「新しい中世」+ 「ネットワーク」。バルトをキーワードとする共通のアイデンティティと共通の利益を目指した動き

移民圧力

(純流入 = 流入 - 流出、EU25、単位1,000人)



東と南からの移民圧力

EU内で逮捕された不法移民の国籍別内訳

年	2003	2004	2005	2006
ルーマニア	38,894	43,839	63,172	84,009
アルバニア	41,846	37,025	52,461	58,738
モロッコ	35,048	33,942	34,092	40,920
ウクライナ	34,082	29,289	26,964	22,025
イラク	13,518		14,351	22,527
セネガル				19,775
ロシア	17,991	17,346	13,937	
ブラジル			12,009	17,594
アルジェリア	14,182	14,634		14,019
パキスタン				13,654
ブルガリ	13,473	11,914	11,412	
セルビア・モンテネグロ			13,101	11,860
中国	13,020	11,019		
モルドヴァ		11,989	12,712	
トルコ		11,185		

EUから送還された移民の国籍別内訳

年	2003	2004	2005	2006
アルバニア	40,811	35,258	49,979	54,420
ルーマニア	27,182	26,472	26,402	23,864
モロッコ	23,323	21,049	21,324	20,116
不明	22,512			
ウクライナ	10,874	13,156	11,314	12,859
トルコ	11,675	10,884	8,582	6,632
ブルガリア	10,195	9,343	7,933	7,040
ポーランド	9,497			
セルビア・モンテネグロ		6,532	7,560	5,844
ロシア	6,563	6,972	5,203	3,875
ブラジル			6,003	
セネガル				5,839
アルジェリア		5,619	5,219	5,637
モルドヴァ		4,671		

注：イギリスを除く。国境での入国拒否データを除く。1992年に設立されたCIREFI(境界通過及び移民に関する情報、協議、意見交換センター)のデータ。

ソフト・パワーとしてのEU ー規範から地政学的主観性の生成へ

何が足りないのか？

- ◆ 地政学モデルは、共通価値のコンディショナリティを課す大西洋統合側の規範を示す。
- ◆ 配置理論は、大西洋統合の内部における国家のポジショニングの余地と影響力を明らかにしている。
- ◆ だが、アウトサイダーが如何にして、コンディショナリティを変容させながら自発的に受容していくかというプロセスは視野の外にある。
- ◆ ボーダー・リージョンにおける日常生活を通じて価値の共有が生成されるプロセスが分析対象外になる。

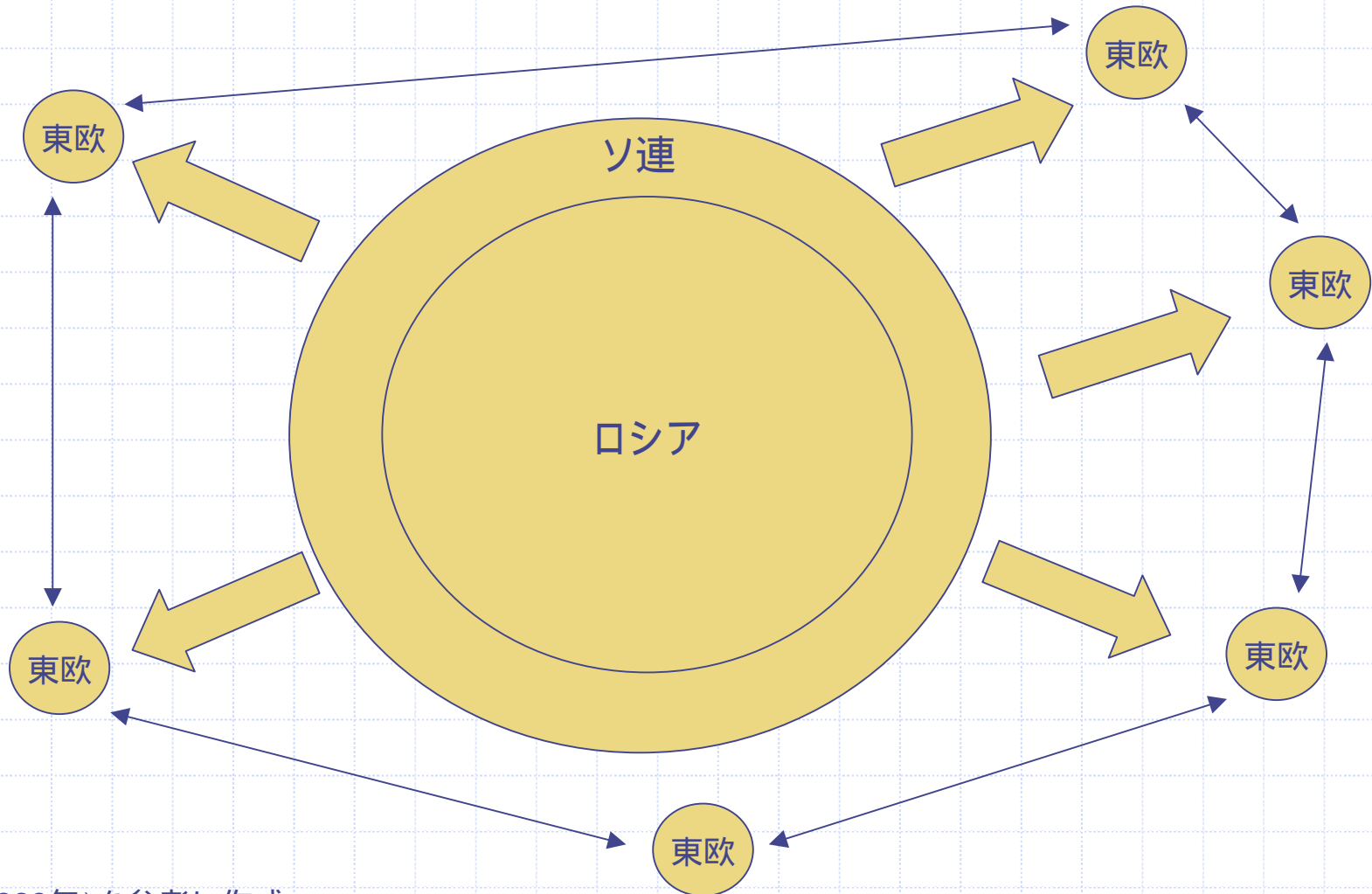
➡ 間主観性 (Intersubjectivity) の導入

独占とコメコン体制を基礎とする 「ハードな」帝国としてのソ連

- ◆ ソ連から東欧諸国への石油・共産主義イデオロギーのフロー
- ◆ コメコン内のファジーなボーダーと域外に対するハードなボーダー
- ◆ コメコン諸国間の相互関係は希薄
- ◆ このシステムは、EUとENPの関係に似ているように見えるが、フローの方向が異なる。

石油・共産主義イデオロギーのフロー

関係



出所: 蓮見(1993年)を参考に作成。

規範のパワーと欧州近隣諸国政策を基礎とする「ソフトな帝国」としてのEU

- ◆ ENP諸国からEUへの石油・天然ガス、移民のフロー
- ◆ EUからENP諸国への価値の共有をもとになったネオリベラル・イデオロギーのフロー
- ◆ シェンゲンとクロスボーダー・コオペレーション: 域外に対するファジーなボーダー?
- ◆ EU市場に依存する近隣諸国間の相互関係は希薄
- ◆ ENP諸国間の地域協力の展望は?

石油・天然ガス、移民のフロー

価値の共有をとまなうネオリベラル・イデオロギー

バルト海地域プログラム
(2007 - 2013)

ロシア

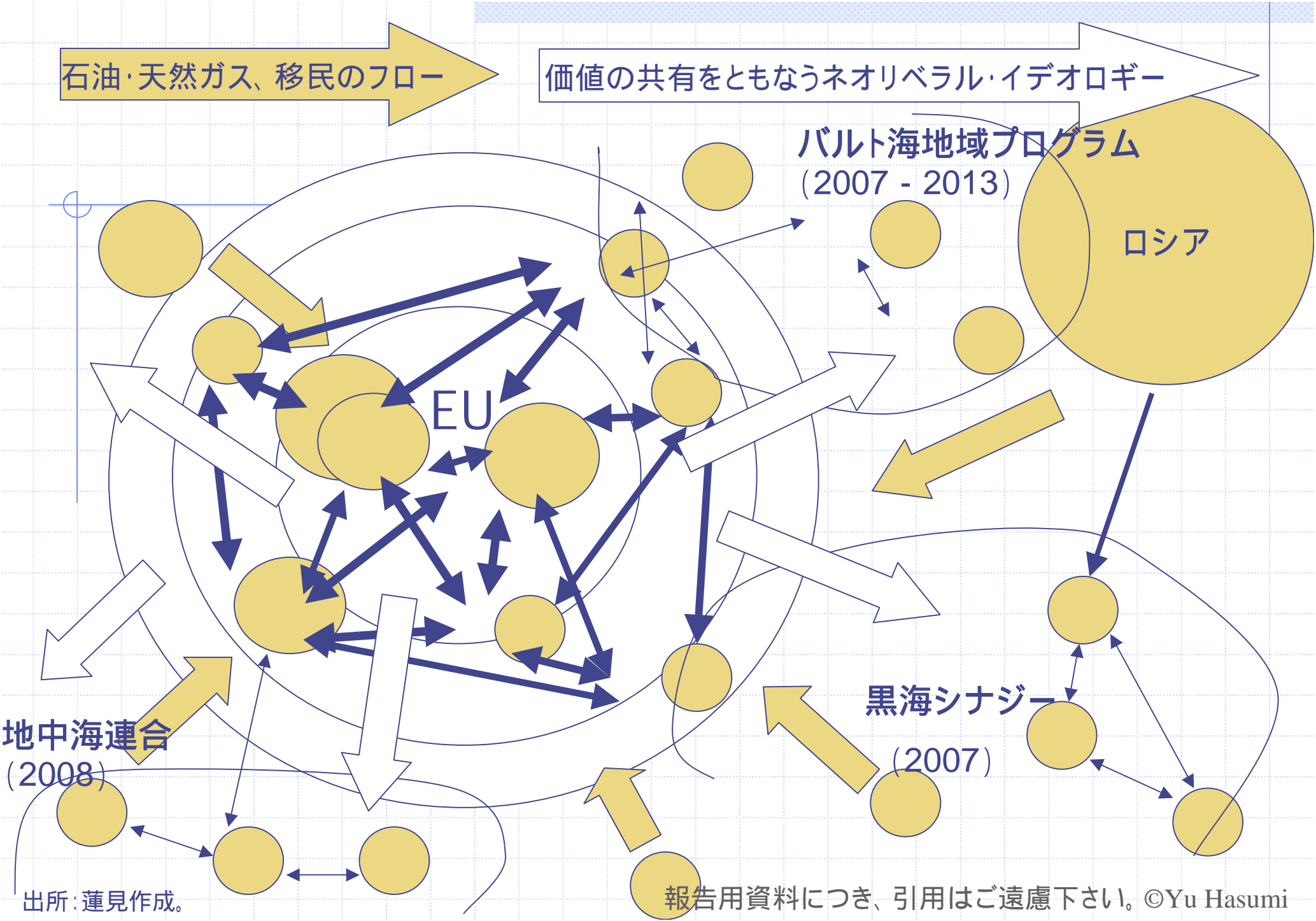
EU

黒海シナジー
(2007)

地中海連合
(2008)

出所: 蓮見作成。

報告用資料につき、引用はご遠慮下さい。©Yu Hasumi



地政学的主観性の生成

秩序の構成要素	サブ・アспект	概要
アイデンティティ・プロジェクト	時間	地政学的主観性の構築における一時的な考慮 (たとえば、EU内における統合の発展と現在の状態のアセスメント)
	空間	地政学的主観性の構築における空間的考慮 (たとえば、EUの望ましい組織、地理的広がり、地域的な動作環境)
利害プロジェクト	地政学	特定の部門あるいはイシュー領域における目標指向的行動の程度と望ましさのアセスメント (たとえば、欧州部におけるEU拡大政策)
	ジオストラテジー	部門あるいはイシューの領域を超えて地政学的主観性による全体の配置アセスメント (たとえば、欧州北部におけるEUの全体的な目的)

グローバリゼーションへの 地域の適応に関する2つのモデル

国家主義モデル ←	→ ネットワークモデル
グローバル経済から隔離された地域経済	グローバル経済と相互浸透する地域経済
資産ポートフォリオとしての地域経済	生活様式としての地域経済
特定の領土に対する政治主権によって定義される地域経済	空間的に集積した社会・経済的ネットワークの自然なシステムとしての地域経済
グローバル経済の門番としての地方自治体	グローバル経済の入り口としての地方自治体
個別利害をもつ組織としての他の政治的アクター	ネットワーク・パートナーとしての他の政治的アクター
明確に区別された特殊利害に基づいた他のアクターとの協力	制限のない持続的な交渉関係に基づいた他のアクターとの協力
主権を維持するために選好される他のアクターとの動的な関係	情報と資源のネットワーク・アクセスを最大化する多元的關係

出所: Ansell, Gonzales, and O'Dwyer, 2001, p. 70.

報告用資料につき、引用はご遠慮下さい。©Yu Hasumi

ノーザン・ダイメンションの事例

付記: ノーザン・ダイメンションについては、
蓮見雄編著『拡大するEUとバルト経済圏の胎動』
(昭和堂、2009年2月)を参照して下さい。

4つの地域評議会と ノーザン・ダイメンション

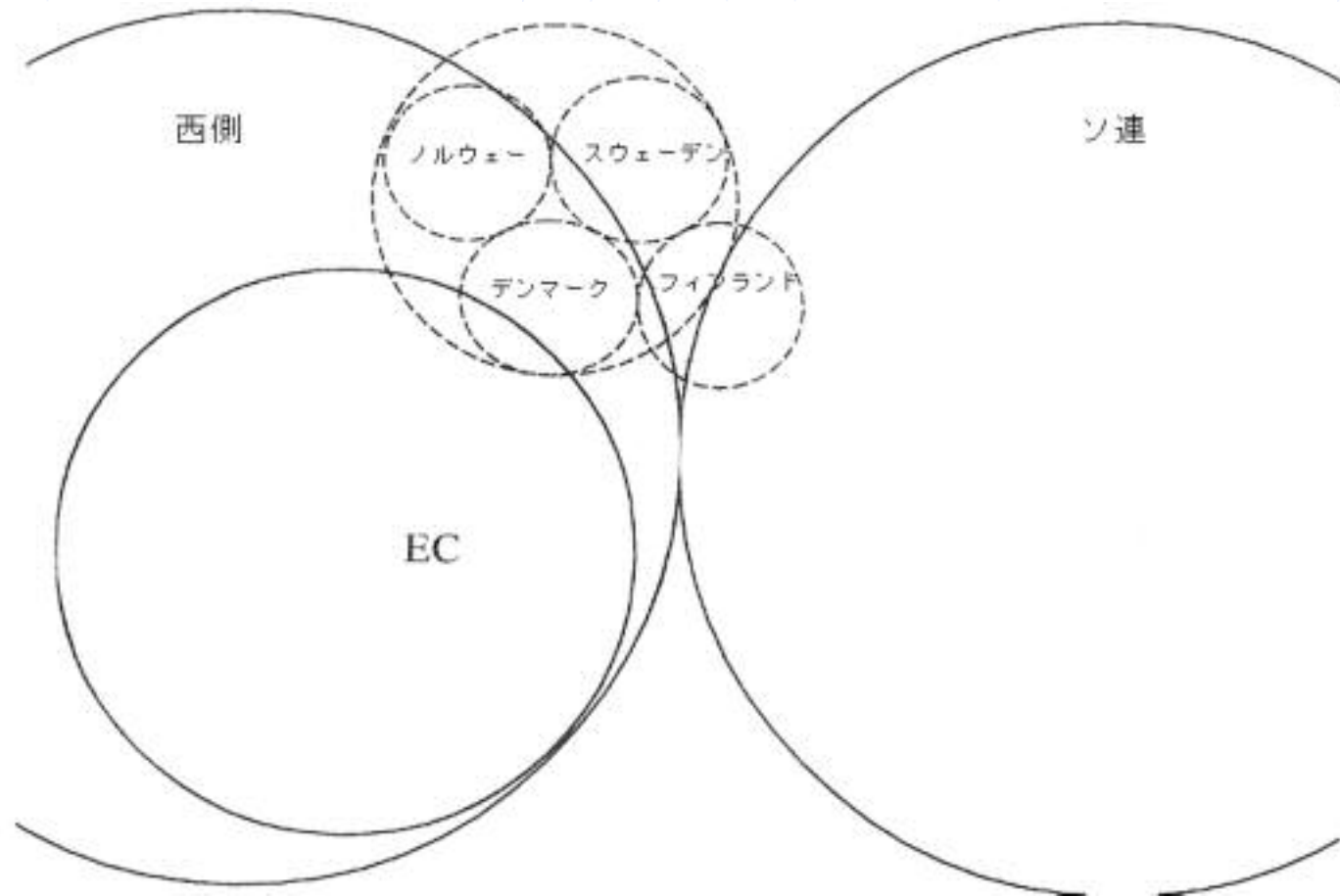
- Nordic Council of Ministers
Denmark, Finland, Iceland, Norway, Sweden,
and the autonomous territories of Greenland, Faroe Islands and Åland
 - Arctic Council
Canada, Denmark, Finland, Iceland, Norway, Russian Federation, Sweden, USA
 - Barents Euro-Arctic Council
Denmark, Finland, Iceland, Norway, Russian Federation, Sweden,
European Commission
 - - - Council of the Baltic Sea States
Denmark, Estonia, Finland, Germany, Iceland, Latvia, Lithuania,
Norway, Poland, Russian Federation, Sweden, European Commission
-
- The Northern Dimension
 - European Union
 - National boundary



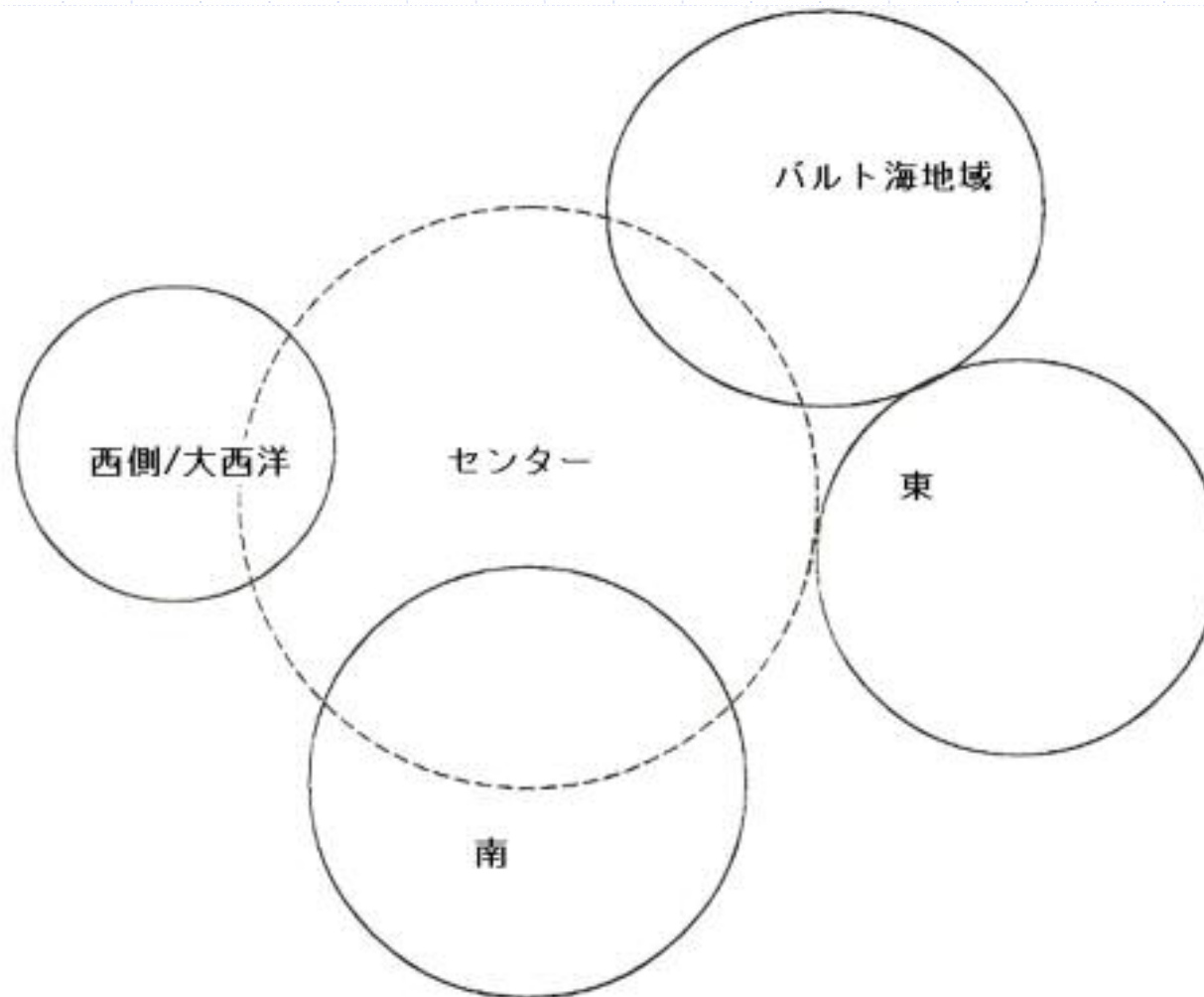
出所: <http://www.nordregio.se/>

報告用資料につき、引用はご遠慮下さい。©Yu Hasumi

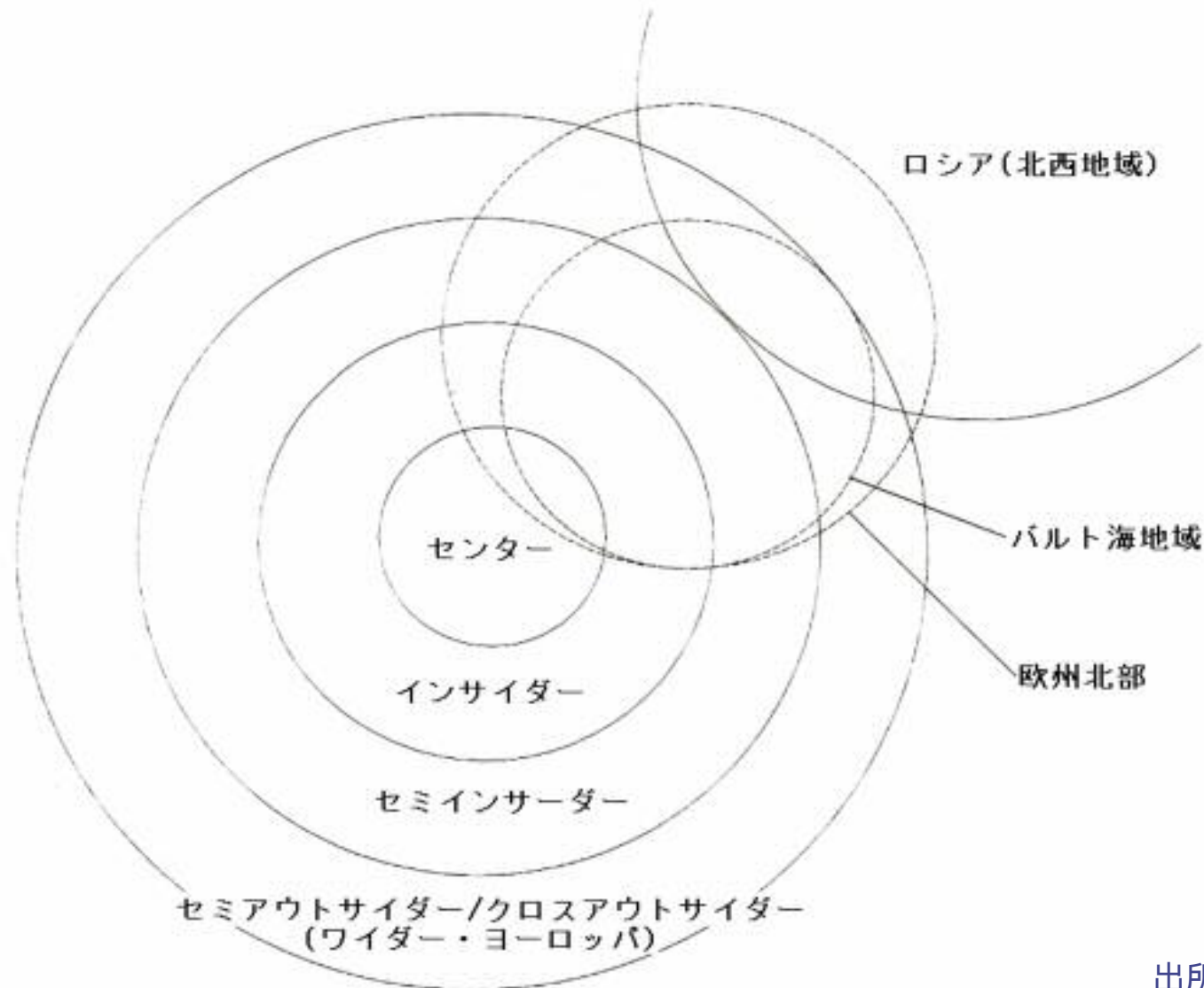
冷戦期のノルディック・バランス



1990年初頭のオリンピック・リング



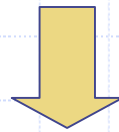
同心円のEUと欧州北部の関係性



欧州近隣諸国パートナーシップ政策手段クロスボーダー・コオペレーション(ENPI-CBC)の含意

欧州近隣諸国パートナーシップ政策手段 (ENPI)

「対外政策とEU内の経済・社会的結束を包摂した二重の性格、及びEUの域外ボーダーの両側に同様に足をつけるという大志」
(ENP strategy paper, 2004, p.26).



120億ユーロ (2007-2013年、実質で前予算期間よりも+32% 増)
クロスボーダー・コペレーション(ENPIの5%)
「共有」(Joint ownership)
「内」、「外」、「内と外のあいだ」に対する政策の調和
ETC(European Territorial Cooperation)、ENPI、
IPA(Instrument for Pre-Accession Assistance)

ENPIに関する規則(EC)No 1638/2006

- ◆ ヨーロッパにおける新しい分断を避け、EUの内と外のボーダーを超えて安定と繁栄を促進する。
- ◆ 多年度プログラム、共同出資
- ◆ クロスボーダー・コーペレーションは、共同体全体及び近隣諸国との統合され持続可能な地域・調和的な領域統合に貢献すべきである。
- ◆ 多文化の対話、人と人との交流people-to-people contacts (加盟国に住む移民コミュニティとの連携、市民社会・文化諸機関のあいだの協力、若者の交流を含む)。

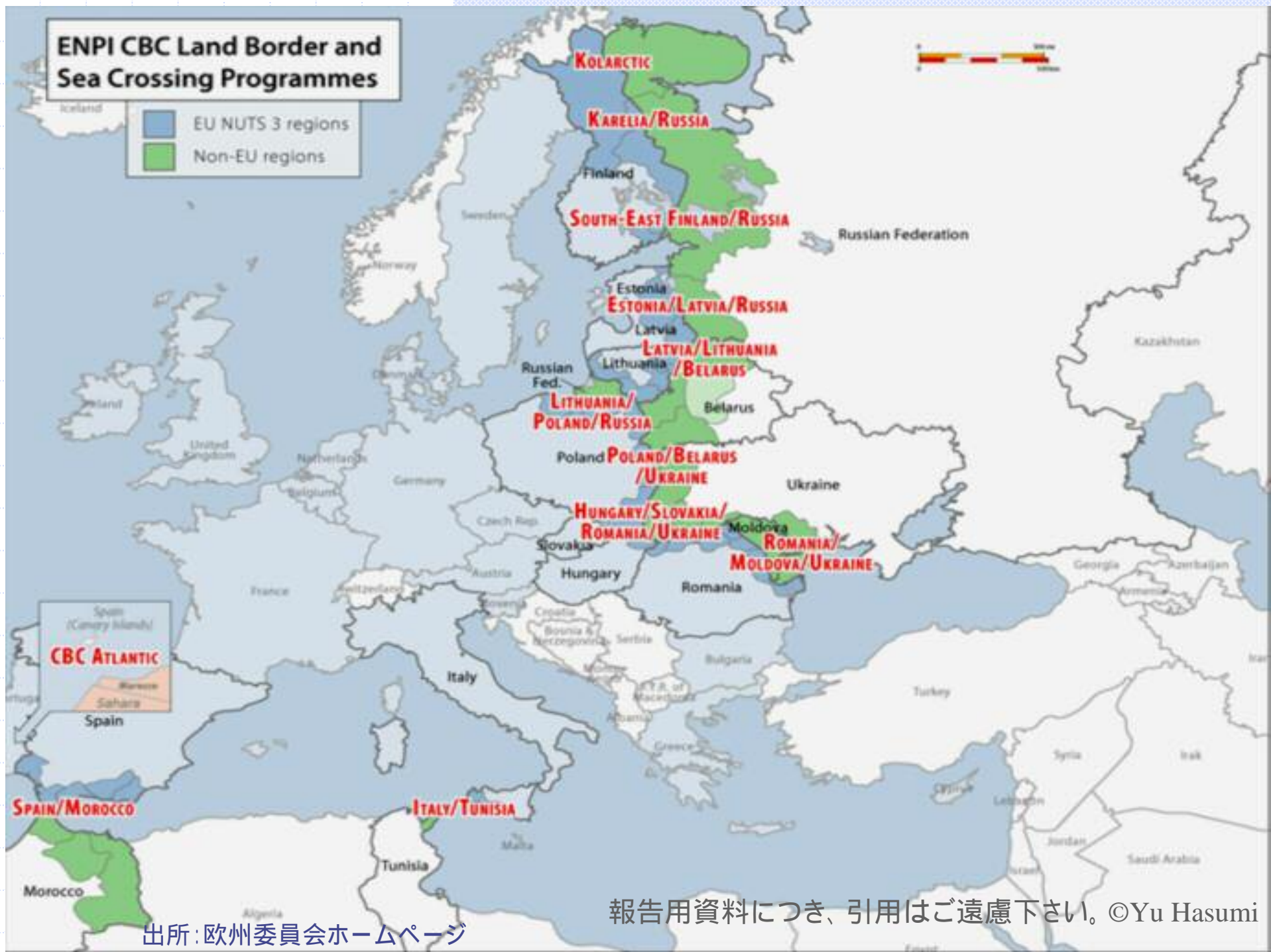
ENPI-CBC:

ローカル・パートナーが優先課題を設定する。

- ◆パートナーの共同出資をとらない、
完全に対等でバランスのとれたプログラム
- ◆ローカル・地域レベルが主役
- ◆ボトムアップ・アプローチ
- ◆共同管理機関の設置とそれを通じた
プログラム・パートナーの自主管理
- ◆他のイニシアチブとの補完性・一貫性
(EUのイニシアチブだけでなく)
- ◆しかし、欧州委員会がプログラムを採択

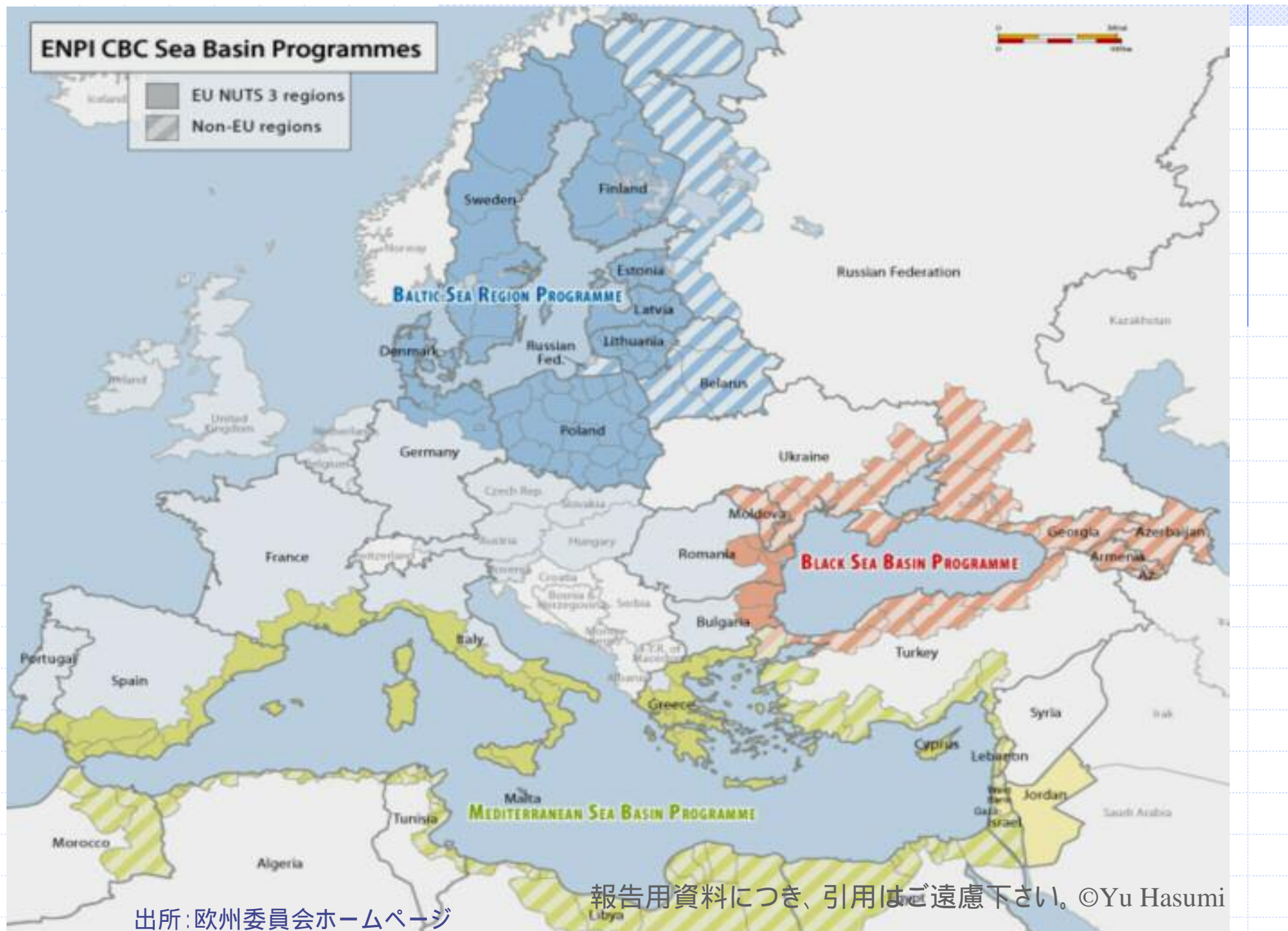
ENPI CBC Land Border and Sea Crossing Programmes

- EU NUTS 3 regions
- Non-EU regions



出所: 欧州委員会ホームページ

報告用資料につき、引用はご遠慮下さい。©Yu Hasumi



出所: 欧州委員会ホームページ

報告用資料につき、引用はご遠慮下さい。©Yu Hasumi

問主観性の示唆

フーコーの同定した権力関係

- ◆ 人が他者に作用を及ぼすことを認める差異化の体系
- ◆ 他者の行為に影響を与える人びとが追求する目的の類型
- ◆ 権力関係を存在させる手段(恫喝、経済的不均衡、監視など)
- ◆ 制度化の諸形式
- ◆ 合理化の度合い
- ◆ 権力と抵抗の一体性



間主観性の示唆ー権力

- ◆ 「・・・権力が動機づけや価値体系への作用を含み、その作用によって必然的にこの動機づけが特定の仕方で水路づけられる・・・。動機に対して権力を行使される人びとは、もしその人びとが一定の物事を達成したいと望み、また特定のアイデンティティを獲得したり維持したりしたいと望むならば、特定のやり方で行為する以外に選択はないという状況におかれるのである。」
- ◆ 「・・・権力は特定の関係性の論理に依存するということであるが、その依存が今度は、特定の意味、関連性、前提、および文脈の共有に依存しているのであり、しかもこれらのいずれもが、個々の主体に属しているのではなく、むしろ諸主体の間世界に属している・・・。」

共同体と市民

- ◆ 共同体 = 競争的であると同時に協力的である相互依存の承認。
- ◆ 共同体の存在条件 = 人びとが、共通のアイデンティティを共有された生活世界から引き出さねばならない。
- ◆ 市民 = 共同体の一員であることは、間主観的存在であり、シティズンシップの公式的な権利は、間主観的闘争の成果である。

生活世界の市民

- ◆ シティズンシップの制度：市民の権利・責務を守るシティズンシップの制度は、グローバル化によって変革期にある。
- ◆ 公的領域：公共圏は、貨幣と権力によって媒介されており、議論や会話それ自体がもつ関心や力を効果的に機能させるほどには組織化されていない。
- ◆ 私的領域：
 - 生活世界における「承認としてのシティズンシップは、権利と義務についてシステムが刻み込んだものの観点からなされた形式的な表現をもつと同時に、一定の集団が生活世界のなかで享受する地位と結びついた、より実質的な次元をもつ・・・」。
 - 「・・・生活世界の諸関係がシステムの諸関係よりもかなり「遅れる」場合があること、そしてそれほど容易には変動したり変革されないこと」。



「社会生成の現場」としてのENPI-CBC

- ◆ 「存在」(being)ではなく、「生成」(becoming)
- ◆ 「社会生成の現場」(the Fabric of Social Becoming)
- ◆ ENPIの鍵は「人と人との関係」(people-to-people)
- ◆ 「「現場」(fabric)という語は、一定の物質的な基盤、身体的な絡み合いを示唆しており、それはまた間主観性においては明白なことでもある。人間は身体的な存在であり、そしてこのことはまったく決定的なことである。さらに、間主観的な人間の諸関係は物質的環境のなかで起こり、また物質的環境を含んでいる。」

成果と課題

- ◆ 蓮見(2005年b)は、ENPが、ソフトなパワー、規範のパワーとしての「統一的」フレームワークであることを明らかにした。
- ◆ 蓮見(2008年a)は、ENPに、上記の「統一性」とともに、「曖昧性」が含まれており、それがEU主導のフレームワークを崩すことなく、柔軟に政策を実現していく可能性を生み出していることを明らかにした。
- ◆ 蓮見(2008年b)は、「多元的開放型リージョナル・ガバナンス」という概念を導入することによって、ソフト・パワーあるいは規範のパワーとしてのEUの特質とENPとの関係性を示唆した。
- ◆ 蓮見(2007年)は、ヨーロッパにおける大西洋統合、つまり欧米関係の役割とENPの関係性を示唆した。
- ◆ 課題:しかし、これらの研究は、ENP対象国側の自発的適応過程を考察の対象外に置いているという点で、ENPの実現過程を分析する視点として不十分である(蓮見(2005年a)は、萌芽的段階であるが、この問題に触れている)。そこで、本報告では、(イ)大西洋統合の地政学の重要性を指摘すると同時に、(ロ)間主観性概念を導入し、「社会生成の現場」としてENPI-CBCの事例研究とその比較を行うことが必要であるという課題を明らかにした。

補論：討論に触発されて

- ◆ ENPは、EUと対象国のバイラテラルな関係を基礎としているが、黒海シナジー、地中海連合に見られるように(さらに対中央アジア政策)、マルチラテラルなアプローチを併用するようになっており、その補完関係は重要な論点である。
- ◆ 一方で、ENPは、東において欧州審議会(ヨーロッパ的価値の定着を図るソフトな手段)と連携することが予想され、その補完関係は重要な論点である。他方で、南において欧州審議会に相当する機関がない。地中海連合や黒海地域協力は、欧州審議会に類似した役割を期待されているのかもしれない。したがって、ENPの東と南における実現過程の比較は重要な論点である。
- ◆ 間主観性概念を導きの糸としたENPI-CBCの実証分析は、同時にコンストラクティヴィズムの再検討という課題とも重なっている。
- ◆ ENPの実現過程は、EUのエネルギー安全保障政策とも関連している。

主要参考文献

- P. Aalto (2006) *European Union and the Making of a Wider Northern Europe*, Routledge.
- C. Ansell, V. Gonzales, and C. O'Dwyer (2001) "The Variable Geometry of European Regional Economic Development", -in S. Weber ed., *Globalization and the European Political Economy*, Columbia University Press.
- S. Bertozzi (2008) "Schengen: Achievements and Challenges in Managing an Area Encompassing 3.6 million km²", *CEPS Working Document*, No.284.
- C. Browning and P. Joenniemi (2007) "Geostrategies of the European Neighbourhood Policy", *DIIS Working Paper*, No.2007/9.
- D. Haminton and J. Quinlan (2007) *The Transatlantic Economy 2006*, Center for Transatlantic Relations.
- J. M. Magone (2005) *The New World Architecture - The Role of the European Union in the Making of Global Governance*, Transaction.
- H. Mouritzen and A. Wivel eds. (2005) *The Geopolitics of Euro-Atlantic Integration*, Routledge.
- M. Smith and R. Steffenson (2005), "The EU and the United States", -in C. Hill, M. Smith eds., *International Relations and European Union*, Oxford University Press.
- F. Tassinari (2007) "Whole, free and integrated? A Transatlantic Perspective on the European Neighbourhood", *CEPS Working Document*, No.271.
- ニック・クロスリー (2003) 西原和久訳 『間主観性と公共性 - 社会生成の現場』 新泉社。
(N. Crossely, *Intersubjectivity: The Fabric of Social Becoming*, SAGE Publications Ltd, 1996)
- 蓮見雄 (2008a) 「欧州近隣諸国政策における「曖昧性」の役割」 『現代の理論』 第16号。
(2008b) 「多元的開放型リージョナル・ガバナンス形成過程としての欧州近隣諸国政策」 『経済学季報』 第57巻3・4号。
(2007) 「大西洋統合と欧州近隣諸国政策」 『経済学季報』 第57巻1・2号。
(2006) 「グローバル経済ガバナンス問題と国際機構・EU-「市場との対話」と「市民社会との対話」の両立は可能か-」 『慶應法学』 第5号。
(2005a) 「「ひとつのヨーロッパ」とボーダー・リージョンの新たな役割」 『経済学季報』 第55巻1号。
(2005b) 「欧州近隣諸国政策とは何か」 『慶應法学』 第2号。
(1993) 「東欧諸国とEC市場 EC市場をめぐる東欧、南欧、NIEsの競合」 『経済学季報』 第44巻4号。